

事案名	福島県内の事案（福島県 平成16年度新規事案）
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧軍毒ガス弾等についてのアンケート調査結果（元相模海軍工 廠工員）〔1〕</li> <li>・証言（元相模海軍工員）〔2〕</li> <li>・『相模海軍工廠 - 追想 - 』〔3〕</li> <li>・民間企業社史〔4〕</li> <li>・『戦争と勿来 市民の体験ときき書き 第一集』〔5〕</li> <li>・「勿来地区における『朝鮮人飯場』と戦時労働員についての調 査メモ」〔6〕</li> <li>・『磐高八十五年のあゆみ』〔7〕</li> <li>・『ふくしま戦争と人間7 痛恨編』〔8〕</li> <li>・『錦小九十年史』〔9〕</li> <li>・『トラジ 福島県内の朝鮮人強制連行』〔10〕</li> <li>・『福島民友』平成12年3月8日〔11〕</li> <li>・「平成16年度に登録された新規事案に係る情報収集につい て」平成17年12月13日〔12〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>終戦後、神奈川県寒川町の相模海軍工廠からイペリット容器を運び出し、福島県内の山中に掘られた隧道内に運び入れたとの証言情報がある。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元相模海軍工員は、知り合いの元相模海軍工員から毒ガス弾等の移送についての情報を聞いたことがあるとしてその元相模海軍工員の連絡先を記している〔1〕。</li> <li>・これを受けて、毒ガス弾等の移送に関与した元相模海軍工員に電話で情報を確認したところ、終戦後まもなく、寒川からイペリット200kg入りの容器を大きな隧道に運び入れたが（本数ははっきり覚えていないが、トラック10台分くらいあった）、場所については同行者が福島県南部と言っていたのを記憶しているが、はじめて行った場所なので地理感覚がなく、詳しい場所は分からないと証言している〔2〕。</li> </ul> <p>その他情報</p> <p>（1）福島県内の相模海軍工廠関係施設に係る壕等の情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元相模海軍工廠錦作業所関係者（昭和19年4月に錦に赴任）は、男子工員は、海軍大尉（首席部員）の指揮のもと、疎開工場として石炭採掘の跡穴を横穴式工場にする建設工場を行ったと記している〔3〕（同海軍大尉について別の資料では「相模工廠錦作業所長」と記されている〔4〕）。</li> <li>・郷土史研究者は、昭和19年8月4日に上記と同名の海軍</li> </ul>

	<p>大尉らが地下工場予定地といわれた地区の測量を開始したと記している〔5〕。また、別の郷土史研究者も、海軍大尉（相模海軍工廠の錦作業所長）が地下工場建設のための指揮をとっていた。また、海軍施設協力会、朝鮮人労務者等が工事を行っていたとして壕の位置を記している〔6〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元相模海軍工廠勿来工場に動員された学徒は、「仕事は地下工場建設と聞かされておりましたが、結局山間に名ばかりの道を切り開いた後、ダイナマイトで山腹に防空壕程度の横穴を掘っただけに終わりました」、「その工場においては毒ガスの研究も行われていたらしく、工場にはツンとした悪臭が流れ、車で通過しただけでも鼻や目を刺激したものです。上級工員や海軍の軍人は空襲になると防毒マスクを入れたバックをぶらさげて防空壕に入りましたが、当時この辺で防毒マスクを携帯していたのはこの工員位ではなかったかと思えます」として、工場での作業は海軍の下士官が、山の作業の場合は大学生が指揮していたと記している〔7〕。</li> <li>・相模海軍工廠勿来工場に動員された学徒が「仕事は地下工場の建設とされ、山間に道路をひらき、山腹にダイナマイトで横穴を掘る仕事だった。上級工員や海軍士官は防毒マスクをかけて洞穴にはっていたが、なにかツンとした悪臭が洞穴から流れてきて、毒ガスの研究でもしていたのだろうか」と回想していると記されている〔8〕。</li> <li>・相模海軍工廠勿来工場に動員された地元の学校史には、工場を空爆の危険から護るために行われた地下工場建設作業は海軍施設隊の指導により学徒と一般の勤労奉仕作業によって進められ、昭和20年2月より始められ終戦の日まで巾6m、高さ5mで全長62mの横穴壕を掘進したと記されている〔9〕。</li> <li>・地下工場の建設に際し、木の枠材を運んだ勤労奉仕隊員は、作業を行った軍人について、相模海軍工廠の方達で30～40名ほどいたと記している〔10〕。</li> </ul> <p>(2) 相模海軍工廠錦分廠の近傍に存在する壕等に係る情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証言情報との関連は不明だが、平成12年3月3日に、いわき市内で終戦直前に旧海軍が地下軍需工場用に掘ったと見られる複数の横穴が市民グループにより発見された〔11〕。福島県が、同市民グループから行った調査によると、平成12年3月に新聞報道された横穴は、崩落している場所と現存している場所があると記している〔12〕。</li> </ul>
--	--